

付録 4

環 境 用 語 の 解 説

(あ)

赤 潮

プランクトンの異常増殖により海水が着色する現象。有害プランクトンや一時的に酸素消費量が増大することによる酸素欠乏のため、魚介類のへい死など、漁業被害を伴うこともある。

赤潮の発生は、閉鎖性水域でおこりやすく、窒素、リン等の栄養塩類の流入等による富栄養化の進行が基本的発生原因とされているが、底質から海水への溶出及び降雨、河川水の大量流入による塩素量の低下などの原因も指摘されている。

悪臭物質

特有のおいをもっている化合物は40万にも達するといわれるが、悪臭を発生する物質を化学的にみると窒素や硫黄を含む化合物が主で、そのほかに低級脂肪酸などがあげられる。

昭和47年5月から施行された悪臭防止法では、悪臭の代表的な構成成分である“アンモニア”、“メチルメルカプタン”、“硫化水素”、“硫化メチル”、“二硫化メチル”、“トリメチルアミン”、“アセトアルデヒド”及び“スチレン”の8物質を「悪臭物質」として、規制を行っている。

アメニティ

アメニティ (Amenity) という英語は通常「快適さ」あるいは「感じのよさ」と訳されている。環境の質はよく「アメニティ」と呼ばれ、静かさ、美しさ、プライバシー、社会的関係、その他「生活の質」の測定できない諸要素に関係している。

環境に対する不満の原因は汚染の増大だけにあるのではなく、環境質の悪化にも原因があると考えられ、環境政策においても「アメニティ」が注目されている。

アルキル水銀

有機水銀の一つで、この中に含まれているメチル、エチル水銀は人間の神経をおかす。

「水俣病」の原因物質とされており、アルキル水銀による中毒症状は、知覚・聴力・

言語障害、視野の狭窄、手足のまひなどの中樞神経障害を起こし死亡する場合もある。
主な発生源は化学工場、乾電池製造業などである。

(い)

硫黄酸化物 (SO_x)

硫黄 (S) と酸素 (O) とが化合してできるものをいい、例えば二酸化硫黄 (SO₂・亜硫酸ガス)、三酸化硫黄 (SO₃・無水硫酸) など6種ほどあり、そのうちで大気汚染の主役と考えられているものの大部分は亜硫酸ガスである。いずれも刺激性が強く、1～10ppm程度で呼吸機能に影響を及ぼし、においを感じ、眼の粘膜に刺激を与え流涙をきたす。

い き ち 閾 値

その値以下では地域住民の健康上に悪い影響が起こらない値をいう。

この閾値は、世界保健機構 (WHO) が1963年に「大気性状の判定条件と大気汚染の測定法」のためのシンポジウムを行ったなかで報告された大気汚染判定の4つのレベルの第1レベル (その値又はそれ以下の値であれば現在までの知見では直接又は間接の影響 (反射又は適応、あるいは防御反応の変化を含めて) が観察されなかった濃度と暴露時間) に相当するものである。

一酸化炭素 (CO)

炭素又は炭素化合物が不十分な酸素供給の下に燃焼するか、あるいは炭酸ガスが赤熱した炭素と接触するときに生ずる無色、無臭の気体であり、生理上極めて有毒で、血液中のヘモグロビンと結合し酸素の供給を阻害し、ひどいときには窒息に至る。

(う)

上乘せ基準

ばい煙、汚濁物質等の排出の規制に関して、都道府県が条例で定める基準であって、国が定める基準より厳しいものをいう。

なお、いわゆる「上乘せ」は、基準値そのものを厳しくするもののほか、規制対象施設の範囲を拡げるもの (「横出し」と呼ばれる。) 等をも含めて使われる場合がある。

大阪府の定める上乗せ条例には「大気汚染防止法第四条第一項の規定による排出基準及び水質汚濁防止法第三条第三項の規定による排水基準を定める条例」がある。

(え)

疫学

疫学とは本来伝染病の流行を研究対象とする学問として生まれたものであるが、今日では非伝染性の疾病をも含めたすべての疾病について、社会集団をその対象としている学問である。病原体、宿主、環境の3つの因果関係を究明することによって、多発する健康障害の発生機序、分布、介在要因を解明していくもので、臨床・基礎医学、病理学、統計学等をも包含した総合医学、あるいは社会医学と理解できる。

SS (Suspended Solid の略)

「浮遊物質量」の項を参照

鉛直分布観測

風速、風向、温度及び大気汚染物質（硫黄酸化物、粉じん等）の濃度を高度別に測定する観測局である。

(お)

オキシダント

全オキシダントとは、オゾン、二酸化窒素、PAN（パーオキシアシルナイトレート）、過酸化物等の酸化性物質で、中性よう化カリウム溶液からよう素を遊離する物質の総称。全オキシダントから二酸化窒素を除いたものが光化学オキシダントとされている。

汚染者負担の原別 (PPP) (Polluter Pays Principle の略)

環境汚染防止のコスト（費用）は汚染者が支払うべきであるとの考えであって、一般には汚染者負担の原則といわれている。

環境汚染によるコストを誰がどのように支払うかという問題は、今後の環境政策を考えるうえで重要な問題であるが、汚染者負担の原則はこの問題について、一定の方向性を与えた画期的な考えであるといえる。

環境を汚染する商品の生産者又は消費者に対して補助金が支払われると汚染者は真のコストを負担しないで済むため、資源が過度に汚染部門に支払われることになるが、賦課金制度、直接強制等の手段によって、社会的コストが汚染者によって完全に支払われることになれば、生産される財の価格は真の市場メカニズムを通じて資源の最適な配分が達成されることになる。PPPはこのような考えに基づき、環境汚染のコストは汚染者が支払うべきであるとしている。

汚濁負荷量

いおう酸化物、BOD等の汚濁物質が大気や水などの環境に影響を及ぼす量のことをいい、一定期間における汚濁物質の濃度とこれを含む排出ガス量や排水量等との積で表される。(例えば、g/日)

(か)

化学的酸素要求量 (COD) (Chemical Oxygen Demand の略)

海中や河川の汚れの度合を示す数値で、水中の有機物などの汚染源となる物質を、通常、過マンガン酸カリウム等の酸化剤で酸化するときに消費される酸素量をmg/ℓで表したものであり、数値が高いほど水中の汚染物質の量も多いということを示している。

活性汚泥法

種々の好気性微生物(活性汚泥)が汚水中に含まれる有機物を無機化又はガス化することを利用してBOD等の有機性汚濁物質の低減を図る方法をいう。

カドミウム

カドミウムによる汚染は、カドミウム精錬所、メッキ工場や電気機器工場などの排水が原因であることが最近明らかになった。水質汚濁による「イタイイタイ病」の原因物質はカドミウムであるといわれており、大量のカドミウムが長期間にわたって体内に入ると慢性中毒となり、機能低下を伴う肺障害(気腫)、胃腸障害、腎臓障害を起こし、あるいは肝臓障害や血液変化(白血球・赤血球の減少)の起こることもある。

環境影響評価（アセスメント）

環境アセスメントとは、一般的には、開発行為が環境に及ぼす影響の程度、その防止策、代替案の比較検討などの開発行為に関する総合的な事前評価をいい、開発行為の環境に対する影響を事前に予知し、その悪影響を防止、制御することを目的として実施するものである。

環境基準

公害対策基本法は「環境基準とは、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染及び騒音に係る環境上の条件についてそれぞれ人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」と定義している。環境基準は行政上の目標基準であり、直接に工場等を規制するための規制基準とは異なる。

（き）

規制基準

排出基準、設備基準、燃料基準及び原料基準の総称であり、いずれも事業者がばい煙、汚水等を発生させ又は排出する場合において遵守しなければならない基準として大阪府公害防止条例第22条に次のように定義されている。

具体的な基準数値は、大阪府公害防止条例施行規則第7条に定められている。

排出基準……工場等から発生し、排出され、又は飛散するばい煙等の量等についての許容限度

設備基準……ばい煙等発生施設に係る設備及び構造並びに使用及び管理に関する基準

燃料基準……工場等において使用される燃料の硫黄含有率の許容限度

原料基準……工場等において使用される原料中に含まれる硫黄その他の有害な物質の量等の許容限度

逆転層

大気中で、高度が高くなるにつれて気温が高くなる現象を逆転といい、このような状態にある大気層を逆転層という。逆転層には、接地逆転層、放射性逆転層、沈降性逆転層、前線性逆転層、地形逆転層などがある。

逆転層があることが大気の花のような役目をして逆転層の内側の大気を安定させるため、地上から出されたばい煙などがこの層と地表との間に閉じこめられて汚染がひどくなる。

許容排出量

大阪府環境総合計画（STEP21）では大気汚染等について「許容排出量」の概念を設定し、これを目安として対策を講じ、総排出量を削減して効果的に環境濃度を低下させていくこととしている。この「許容排出量」は広域にわたる府域の汚染の実態を解析し、環境の良好な地域にあっても現状よりも環境を悪化させないことを条件に、目標を達成するうえで必要な許容される総排出量として算出される。

(く)

クロム (Cr)

空気及び湿気に対しては極めて安定で、硬い金属であるので今日では日用品、装飾品をはじめとして広くメッキに利用されている。クロム化合物中3価のクロムは、毒性はほとんど無視できるが、クロムの毒性が問題になるのは6価クロムの化合物であるクロム酸、重クロム酸の塩である。クロム酸は、皮膚、粘膜の腐蝕性が強く、体内に吸収されたクロムイオンは細胞毒として作用していることが知られておりクロムイオンを含む水の摂取が続けば、肝臓のほか腎臓及び心臓に蓄積することが確かめられている。

(け)

K値規制

煙突の高さに応じて硫酸化物の許容排出量を定める規制方式で、具体的には、地上最大濃度を一定とするように基準式の定数Kを地域の汚染度によって決定し、実際の規制の進み具合と環境の汚染濃度とを見比べながら目標年次までに環境基準の達成をしようとするものである。

(こ)

公害

公害対策基本法（第2条）では七種類、つまり、人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気汚染、水質汚濁（水質以外の水の状態又は底質が悪化することを含む。）、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下及び悪臭という現象をとりあげ、これらによって人の健康又は生活環境に係る被害が生ずることと定義している。

公害病

「公害病」の法律上の定義はないが、大気汚染又は水質汚濁の影響による健康被害についての補償制度（公害健康被害補償法）では、一定の要件の下に、補償給付等を行う対象として、大気汚染に係る気管支ぜん息等呼吸器系疾患、水俣病、イタイイタイ病、慢性ヒ素中毒症が定められている。

光化学スモッグ

光による化学変化でできたスモッグのことをいう。

大気中の二酸化窒素に太陽光線の中の紫外線があたると原子上の酸素ができ、これが酸素と反応し、オゾンができる。オゾンが炭化水素と反応するとアルデヒドなどという刺激性のある物質をつくる。更に一酸化窒素や二酸化窒素も加わりだんだん複雑な化合物をつくって、PAN（パーオキシアシルナイトレート： RCO_3NO_2 ）という物質をつくる。オゾン、アルデヒド、PANを総称してオキシダントといい、これがスモッグの主成分である。

光化学スモッグは、夏の日ざしが強くて風の弱い日に特に発生しやすく、その影響は、目がチカチカする、のどが痛くなるという人体影響のほか、植物にある種の症状を与えるなど広範にわたる。

降下ばいじん

大気中から地面に雨水とともに降下したり、あるいは単独の形で降下するばいじんをいう。

降下ばいじんは、不溶解性物質（水に溶解しないもの）と溶解性物質に分かれる。

不溶解性物質のタール分には発ガン物質などの有害物質が含まれている。

降下ばいじんは、簡易ばいじんびん、ダストジャー又はデポジットゲージで測定し、その結果はトン/㎥/月で表す。

光散乱法

大気中に浮遊している粉じんを空気とともに連続的に吸引し、遮光した検出器内で一定の光束を当て、反射する散乱光の強弱により光学的に測定する方法であり、その結果を mg/m³ に換算して表す。

デジタル粉じん計はこの方法による測定機である。

(さ)

ザルツマン係数

二酸化窒素はザルツマン試薬を用いる吸光光度法により測定される。この方法は、二酸化窒素を吸収発色液（ザルツマン試薬）に吸収させ、生成した亜硝酸イオンが液中の試薬と反応してできたアゾ色素が発色するのを測定するものであるので、二酸化窒素と生成した亜硝酸イオンの比を示す係数が必要となり、これをザルツマン係数と呼んでいる。

(し)

シアン (CN)

水銀、銀、金などのシアン化物を赤熱するとできる無色、有毒の気体で特異な臭気を持ち、これが体内に入ると呼吸困難となり、人が数秒で死ぬほどの猛毒で、致死量 0.06グラムといわれている。メッキ工場や鉱山などシアン化合物を使用する事業所からの廃液に含まれている。

COD (Chemical Oxygen Demand の略)

「化学的酸素要求量」の項を参照

自動車排気ガス

自動車排気ガスには排出管から出るガス、クランクケースから出るブローバイ・ガ

ス、燃料供給系統から出る蒸発ガスなどがあり、これらの排出ガス中には、一酸化炭素、窒素酸化物、ジーゼル黒煙、炭化水素等の物質が含まれている。

植生自然度

自然は、人工の影響を受ける割合によって、自然性の高いものも低いものもある。高山植物群落や極相林のように人間の手の加わっていないものを10及び9とし、緑のほとんどない住宅地や造成地を1、その中間に二次林、植林地、農耕地等をランクし、10段階で表示する。

振動レベル

公共用振動レベル計の人間の振動感覚に似せた計器の回路を使って測った値を振動レベルといい、単位はdB（デシベル）を用いる。地震の震度でみると人体に振動を感じない、いわゆる「震度ゼロ」は55dB以下であり、「震度1」が55～65dBに相当する。

(す)

水 銀

常温で唯一の液体の金属である。湿った空気中で酸化物になりやすく、有毒で一般粉じん中0.1 mg/m³が恕限度である。神経系をおかし、手足のふるえを起こしたり言語障害、食欲不振、聴力視力の減退をもたらす。

なお、水銀化合物の種類は多く、生体に対する作用のうえからは、無機水銀と有機水銀に大別される。無機水銀化合物には金属水銀及び塩化第二水銀が主なものであり、その他、硫化水銀、酸化水銀、硝酸水銀、雷酸水銀等がある。有機水銀化合物の種類は非常に多く、酢酸フェニール水銀やアルキル水銀であるメチル水銀、エチル水銀、ジメチル水銀、ジエチル水銀等があり、メチル水銀が「水俣病」の原因物質であることが知られている。

水素イオン濃度 (PH)

溶液中の水素イオンの濃度をいい、溶液1ℓ中の水素イオンのグラム当量数で表し、一般には $\text{pH} = -\log [\text{H}^+]$ として定義される（ $[\text{H}^+]$ は H^+ （水素イオン）のモル濃

度 (mol/ℓ) である)。pH = 7 で中性、pH < 7 で酸性、pH > 7 でアルカリ性であり、特殊な例 (温泉など) を除いて河川水等の表流水は中性付近のpH値を示す。水道用として望ましい水質は pH6.5から8.5までの範囲である。

(せ)

生物化学的酸素要求量 (BOD) (Biochemical Oxygen Demand の略)

河川の水の中や海水の中の汚染物質 (有機物) が微生物によって無機化あるいはガス化されるときに必要なとされる酸素量のことで、単位は一般的に mg/ℓ で表す。この数値が大きくなれば、その河川などの水中には汚染物質 (有機物) が多く水質が汚濁していることを意味する。

生物指標

化学的酸素要求量 (COD) のような理化学的な指標に対して、どのような生物が生棲しているかを調べることにより、水質の状況を知る指標。水質の状況を総合的に知る指標として特色がある。

(そ)

騒音レベル

騒音計の耳の感覚に似せた計器の回路 (A 補正回路) を使って測った値を騒音レベルといい、単位は dB (A) で表わされる。我が国では dB (A) の代わりに「ホン」という単位が用いられることもあるが、これらは同じ単位である。

総水銀 (T-Hg)

水銀による汚染状況を示す測定値の名称である。検体に含まれる水銀又は水銀化合物の両者を合わせて、金属水銀の量としていくらあるかを分析したものを総水銀値 (量) としている。

総量規制

一定の地域内の汚染 (濁) 物質の排出総量を環境保全上許容できる限度にとどめるため、工場等に対し汚染 (濁) 物質許容排出量を配分し、この量をもって規制する方

法をいう。大気汚染、水質汚濁に係る従来の規制方式は、工場等の排出ガスや排水に含まれる汚染（濁）物質の濃度のみを対象としていたが、この濃度規制では地域の望ましい環境を維持達成することが困難な場合に、その解決手段として総量規制が行われている。

(た)

大腸菌群数

大腸菌群とは、乳糖を分解し酸とガスを形成する好気性又は通性嫌気性の菌の総称である。大腸菌群が水中に存在するということは、多くの場合、その水が人畜のし尿などで汚染されている可能性を示すものであることから、水質汚濁の指標とされている。

脱 硝

NO_x 排出量を抑制するため、排煙から NO_x を回収することをいう。

脱硝は、排出ガス中の NO_x にアンモニアの注入等を行って分解処理する接触還元法、無触媒還元法等の乾式法とアルカリ又は酸などに NO_x を吸収させる湿式法等がある。

現在実用されているのは、乾式法であり、触媒を用いるアンモニア接触還元法が最も多く用いられている。

なお、NO_x 排出量を抑制する方法としては、この脱硝による方法以外に燃焼方法の改善による方法がある。

脱 硫

SO_x 排出量を抑制するため、重油からの脱硫（重油脱硫）、排出ガスからの脱硫（排煙脱硫）が行なわれており、ほかに、両者の中間にあたるガス化脱硫がある。

- ① 高温高圧にした重油に水素を吹き込み、触媒を用いて硫黄分を硫化水素（H₂S）の形で取り出す方法。
- ② 軽油をとった残油を減圧蒸溜し、溜出油を水素化脱硫して減圧残油とまぜる方法等がある。

ガス化脱硫は、重油をボイラーの前炉に噴射して空気不足の状態で部分的に燃焼さ

せ、高温の熱ガスで残りの油を分解させる。その時できた H_2S を生石灰 (CaO) または炭酸カルシウム ($CaCO_3$) と反応させて、硫黄分を CaS の形で分離する方法がある。

排ガスからの脱硫は、①排ガスを石灰乳で洗浄する方法、②硫酸化物を活性炭などの表面に吸着させて、硫酸あるいは硫酸として回収する方法、③石灰石粉末などを吹き込んで硫酸塩として回収する方法等がある。

WECPNL (Weighted Equivalent Continuous Perceived Noised Level の略)

ある場所における1日あたりの航空機騒音の大きさを表わす単位で、1機ごとの騒音レベルだけでなく、飛来時間や機数をも考慮したものである。まず1日に飛来した航空機の騒音レベルをすべてdB平均し、更に時間帯別機数について、同じ大きさの騒音でも昼と夜とでは、夜の方がうるさく感じられるので、夕方に飛来した機数を3倍、夜に飛来した機数を10倍にして計算する。なお、空港周辺地では原則として、7日間連続のWECPNL値をdB平均したもので評価している。

●計算方法

$$WECPNL = \overline{dB(A)} + 10 \log N - 27$$

$\overline{dB(A)}$: 1日に飛来した航空機の騒音レベルを全てdB平均したもの

N : 飛来時間ごとに補正された機数

$$N = N(2) + 3 N(3) + 10 \{ N(1) + N(4) \}$$

N(1) = 0時～7時に飛来した機数

N(2) = 7時～19時に飛来した機数

N(3) = 19時～22時に飛来した機数

N(4) = 22時～24時に飛来した機数

炭化水素 (HC)

炭素と水素から成り立っている化合物の総称で鎮式炭化水素、芳香族炭化水素のほか、縮合環式化合物、脂環化合物に属する多くの炭化水素がある。すべて完全に酸化すれば水と二酸化炭素になる。

(ち)

窒素酸化物 (NO_x)

NO (一酸化窒素)、NO₂ (二酸化窒素)、N₂O₃ (無水亜硝酸)、N₂O (亜酸化窒素)、N₂O₄ (四・二酸化窒素)、N₂O₅ (無水硝酸)、HNO₃ (硝酸ミスト)等をいう。窒素酸化物は主として重油、ガソリン、石炭などの燃焼によって発生する。主な発生源は、自動車エンジン、ボイラー、工場、家庭暖房など広範囲にわたっている。

(て)

DO (Dissolved Oxygen の略)

「溶存酸素量」の項を参照

低周波空気振動

低周波空気振動に関する定義は我が国ではまだ定められていないが、一般には可聴域以下の周波数 (0.1Hz～20Hz 程度) の空気振動をさすといわれている。

発生原因としては工場機械、高速道路高架橋、新幹線トンネルなどがあるが、測定器、測定方法等についてまだ確立したものがなく、また、身体的影響等についても未知な部分が多い。

テン・モード

自動車の走行状態は、アイドリング、加速、定速、減速、の4つの基本モードからなるが、都市内での自動車の走行状態を再現するため、この基本モードを10コ組み合わせ、1走行状態に表わしたものをテン・モードという。

48年度以降の乗用車の排出ガス規制は、このテン・モードによる測定により行われている。

(と)

銅 (Cu)

銅自身にはほとんど毒性がないか、あるいは極めて少ない。しかし、銅粉末を生ずる作業を行うときの最高許容濃度は、1 ppm とされ、極めて高濃度の銅粉により気

道刺激が起こり、発汗、歯ぐきの着色の起こることが報告されているが、慢性中毒になるかどうかは疑問とされている。また、化合物についてはあまり問題は起っていない。

汚染源としては、自然界の岩石から溶出、メッキ工場、金属加工工場、化学工場、非鉄金属製錬所等からの鉱山排水、工場排水、農薬（ボルドー等）などがある。

導電率法

空気を一定の流速で過酸化水素中に吸収反応させ、空気中の硫黄酸化物と化合生成した硫酸の濃度により、電気伝導度の変化を利用して硫黄酸化物の量を連続測定するもので、その結果は ppm で表す。

透明度

直径30cmの白ペンキ塗りの円板（セッキー円板）をワイヤーの先につけ、海中に沈めて船上から見ると、次第に円板が見えにくくなり、ついにまわりの水から反射してくる光と区別できなくなる。このとき延ばしたワイヤーの長さをメートルで表わしたものが透明度である。

(な)

鉛 (Pb)

鉛及び鉛化合物は有害物質として古くから知られている。他の重金属と同じく原形質毒で造血機能を営む骨髄神経を害し、貧血、血液変化、神経障害、胃腸障害、身体の衰弱を起し強度の中毒では死亡する。金属鉛は常温では蒸発しないが粉じんとして吸入し、あるいは経口的に摂取するおそれがある。

(に)

二酸化硫黄 (SO₂)

燃料中の硫黄分が酸化燃焼され、SO₂として排出される。無色、刺激臭のある気体で、粘膜質、特に気道に対する刺激作用が重視されている。

二酸化鉛法 (PbO₂)

二酸化鉛を塗布した布を円筒に巻きつけたものをシェルターに入れて1ヵ月間大気中に暴露し、二酸化鉛と大気中の硫黄酸化物が化合して生じた硫酸鉛の硫酸根を定量するもので、その結果はmgSO₃/100cm³/日で表す。

二酸化窒素 (NO₂)

一酸化窒素 (NO) とその2分の1の体積の酸素との作用、あるいは硝酸鉛又は硝酸銅の固体を熱すると発生する。赤褐色、刺激性ガスとして最も特色がある。水に溶解しにくいので肺深部に達し、しかも吸収時の苦痛があまり烈しくないで、はなはだ危険で、急性中毒死の例が多く、作用は遅発生で高濃度ガス吸収後数時間以上経過して突然強い症状が現われる。120～150ppm では短時間でも危険である。障害は一般に一過性であり、慢性中毒の有無についてはまだ明らかでない。

(の)

ノルマルヘキサン抽出物質

ノルマルヘキサン抽出物質とは、主として排水中に含まれる比較的揮発しにくい炭化水素、炭化水素誘導体、グリース油状物質等を総称していう。通常「油分」といわれており、鉱油及び動植物油等の油分量をあらわす指標として使用されている。

Nm³/時

温度が零度であって、圧力が一気圧の状態に換算した一時間当たりのガス量を表す単位である。

(は)

廃棄物

廃棄物は産業廃棄物と一般廃棄物に分かれ、産業廃棄物とは事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃えがら、汚でい、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類等に代表される。産業廃棄物とされるものは、量的、質的に環境汚染源として重要な意味をもつものであって、その特性に応じて定められた厳しい処理基準に従って処理す

る必要のある廃棄物である。

ハイボリウム・エア・サンプラー

大気中の浮遊粉じんをフィルター上に捕集して重量濃度を測定する装置で、24時間位の短期間の平均濃度の測定に用いられる。

パワー平均

パワー平均とは、音の強さを平均し、dB 表示したものをいい、次式より算出する。また、エネルギー平均またはデシベル平均ともいう。

$$\bar{L} = 10 \log \left\{ \frac{1}{n} \cdot \frac{P_1 + P_2 + \dots + P_n}{P_0} \right\}$$
$$= 10 \log \frac{1}{n} \left(10^{\frac{L_1}{10}} + 10^{\frac{L_2}{10}} + \dots + 10^{\frac{L_n}{10}} \right)$$

L : パワー平均値 (dB), n : 個数、
P ₁ …音の強さ (w/m ²)、P ₀ : 基準値 (10 ⁻¹² w/m ²)
L ₁ …測定した騒音レベル (dB (A))

(ひ)

BOD (Biochemical Oxygen Demand の略)

「生物化学的酸素要求量」の項を参照

PCB (Polychlorinated biphenyls の略)

「ポリ塩化ビフェニール」の項を参照

ppm (parts per million の略)

百万分中の幾分であるかを示す分率であり、大気汚染や水質汚濁の汚染物の濃度を表示するのに繁用されている。

水質汚濁では、1 ℓ 中に 1 mg 汚濁物質が存在する場合の濃度を 1 ppm で示し、大気汚染では 1 m³ の大気中に 1 cm³ の汚染物質が存在する場合の濃度を 1 ppm で示す。例えば、ある物質が、1 kg 中に 1 mg 含まれていると、1 ppm といい、濃度あるい

は含有量を表わす。

なお、pphm (parts per hundred million の略) は1億分の幾分であることを表示する分率で1 ppm の100分の1に相当し、また、ppb (parts per billion の略) は十億分中の幾分であることを表示する分率で1 ppm の1000分の1に相当する。

ppp (polluter pays principle の略)

「汚染者負担の原則」の項を参照

ヒ素

金属光沢があり、灰色で、鶏冠石、石黄、硫ヒ鉄鉱などに硫化物として含有されている。ヒ酸鉛、三酸化ヒ素などは殺虫剤として農業に用いられる。

ヒ素中毒になると全身発疹、高熱、食欲不振等の症状を呈す。水道水、農業用水のヒ素許容量は、0.05ppm 以下ときめられている。

(ふ)

富栄養化

水の出入の少ない閉鎖性水域では、工場排水、家庭排水、農業排水などにより、水中の栄養塩類である窒素、リンなどが増えると藻類やプランクトンなどが太陽光線を受けて爆発的に増殖し、腐敗過程で更に水中にリンや窒素が放出され、次第に栄養塩が蓄積される。この現象を富栄養化という。

リンや窒素の栄養塩類の増加つまり富栄養化は必ずしも赤潮の原因とは一般的に考えられていないが、少なくとも基本的な要因とみなされている。

複合汚染

複合汚染とは、通常各種の汚染物質による汚染が重複して生ずる環境汚染形態をさし、単一汚染という概念と対応するものである。例えば、古い型の汚染ともいべきばいじんによる大気汚染と、新しい型の汚染ともいべき硫黄酸化物 (SO_x) や自動車排出ガス (CO, Pb 等) による汚染とが重なり合っているような場合であり、複合汚染による公害は、より深刻である。

浮遊物質 (SS) (Suspended Solid (懸濁物質) の略)

水中に浮遊している物質の量をいい、一定量の水をろ紙でこし、乾燥してその重量を測ることとされており、数値 (ppm) が大きいほど水質汚濁の著しいことを示す。

浮遊粉じん

浮遊粉じんは大体 $0.5\mu\sim 10\mu$ の範囲の極めて微細な粒子で、都市のそれは主として炭素分とタール分からできている。この粒子は非常に小さく、自分の重さでは落下しないで浮遊するため、風の少ないときは濃度を増し、風が強くと拡散して濃度が低くなる。

(へ)

pH

「水素イオン濃度」の項を参照

(ほ)

ポリ塩化ビフェニール (PCB) (Polychlorinated biphenyls の略)

PCBは、不燃性で化学的にも安定であり、熱安定性にも優れた物質でその使用範囲は、絶縁油、潤滑油、ノーカーボン紙、インク等多数である。

カネミ油症事件の原因物質で、新しい環境汚染物質として注目され、大きな社会問題となったため、現在、製造は中止されている。

(ゆ)

有機リン

有機リン化合物は殺虫剤として、パラチオン、マラソン、スミチオン、クロルチオン等の名で使用される。リン酸、ピロリン酸のエステル有機リン殺虫剤は殺虫力が強く人間にも有害であり、浸透力が強く、体についたり、吸入したりすると、頭痛が起きたり、手足がしびれたり、ひどいときには死さえ招く。

有症率

症状を訴えた者の調査対象者に対する比率をいう。大気汚染に係る健康調査を疫学的に行う場合等に利用される。例えば、一般的に用いられている BMRC 方式による呼吸器疾患に関する面接用質問調査では、いくつかの設問に対し訴えたものを慢性気管支炎等の定義に照らし、その有症率をだして、大気汚染に係る健康影響の判断として用いている。なお、年齢構成や喫煙量による影響を是正するために用いられる訂正有症率がある。

(よ)

溶存酸素量 (DO) (Dissolved Oxygen の略)

水中に溶けている酸素量のことをいい、溶存酸素は水の自浄作用や水中の生物にとって必要不可欠のものである。溶解量を左右するのは水温、気圧、塩分などで汚染度の高い水中では消費される酸素の量が多いので溶存する酸素量は少くなる。きれいな水ほど酸素は多く含まれ、水温が急激に上昇したり、藻類が著しく繁殖するときには過飽和の状態となる。

(り)

リモートセンシング

人工衛星や航空機から地球表面を調査すること。農業・林業・土地利用・地下資源・水質源・防災・水産・環境保全など広範な分野にわたって重要な役割を果たしている。リモートセンシングの本来の意味は、直接手をふれないで、離れたところから物体を識別したり、その状態を調べたりすることである。

緑被率

ある一定の区域における樹木により被われた土地の割合をいう。
式であらわすと

緑被率 = $\frac{\text{緑被地面積}}{\text{区域面積}}$ である。

府全域の約35%が緑に被われているが (緑被率35.3%)、そのほとんどが周辺の山間部

に偏っている。

市街地の緑被率は5.2%であり、府としてはこれを15%に引き上げる長期目標を持っている。

(ろ)

ローボリウム・エア・サンプラー

大気中の浮遊粉じんのうち、大気の汚染に係る環境基準に定められている粒径10ミクロン（1mmの100分の1）以下の浮遊粒子状物質をフィルター上に捕集して重量濃度を測定する装置で、1週間から1カ月位の長期間の平均濃度の測定に用いられる。